

とねの絆

第20号
古河市第13地区
発行
令和5年10月31日
とねの絆
広報委員会



第13地区コミュニティ
会長 佐藤 博史

令和4・5年度 第13地区コミュニティ役員

役員紹介		※ 新任	
地区会長	佐藤 博史(北新町)	理事	鎌仲 英俊(砂井新田)
副会長	飯田 明(前林)		※高塚 雅之(上砂井)
	高塚 誠(上砂井)		※山中 郷司(内水海)
会計	小林 保夫(前林)		※羽部 和彦(町水海)
書記	枝 正男(砂井新田)		※知久 貴(前林)
	※山中 政夫(町水海)		※因泥 猛夫(前林)
監査	桜井 一夫(内水海)		宇都木美喜男(高野)
	鈴木 政敏(内水海)		吉沼 明夫(高野)
協賛推進員	飯田 明(前林)		水町 利郎(北新町)

各委員会

行政区	広報委員会	交通委員会	防災委員会
内水海	◎ 梁河 紀栄	市村 昭夫	※ 山中 郷司
町水海	※ 羽部 和彦 能城 忠雄	※ 山中 秀男	※ 松沼 光雄
砂井新田	枝 和夫	枝 正男	鎌仲 英俊
上砂井	※ 高塚 雅之	高塚 誠	※ 飯田 直人
北新町	水町 利郎	◎ 稲葉 信也	※ 五十嵐直治
前林	※ 因泥 猛夫	※ 宇都木清司	※ 知久 貴 小林 保夫 飯田 明
高野	○ 塩田 清七 落合 清一	宇都木美喜男	吉沼 明夫
水海小学校	(教頭) 牧島 博樹		
水海小PTA	(会長) 船橋 範彦		

13地区の皆様におかれましては、日頃より地区コミュニティ活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私は五月女前会長の死去に伴い、令和4年12月1日に13地区コミュニティ会長となりましたが、令和5年度も会長職を継続となりましたので、よろしくお願い申し上げます。私は今年72歳となりましたが、今回は私も普段から注意している高齢者の身近な危険二点について話をしたいと思います。

まず一点目は、高齢者が被害者となる振り込み詐欺などの特殊詐欺です。特殊詐欺とは、犯人が子どもになりすまして高齢者を騙し、高齢者に現金を振り込ませたり、あるいは代理人として直接現金を受け取らせることなどです。この防止策としては、まず電話を留守番電話にセッティングすることです。犯人は声を

残すことを嫌がるので被害を防げます。留守番電話機能がない場合は、たとえ子どもに間違いないと思っても、お金の話になったら、一旦電話を切り、こちらからかけ直すことです。これによって被害を防げます。

二点目は、高齢者が加害者となる場合です。これは自動車を運転しているブレーキとアクセルを踏み間違えて交通事故を起こす高齢者が多いとテレビや新聞記事を目にしますが、これは運動機能や認知機能が衰えた証拠でもあります。一般の運転者はブレーキとアクセルを踏み間違えることはまずありません。高齢になると運動機能や認知機能が衰えるのは仕方ないことです。ブレーキやアクセルを踏み間違えることが1度でもあったら、また運転に自信がなくなったり、また運転を差し控えてく



会長あいさつ

第13地区コミュニティ 地域防災勉強会に参加して

北新町行政区 水町 利郎

ださい。万が一、この様な理由で死亡事故を起こしてしまったり、自分ばかりでなく家族にも多大な迷惑をかけてしまいます。この他にも身近な危険はまだまだあると思いますが、平素から周囲に目を配り十分に注意して下さい。

私は13地区の皆様1人ひとりが日頃より安全で安心な生活が送れますよう心より願っています。

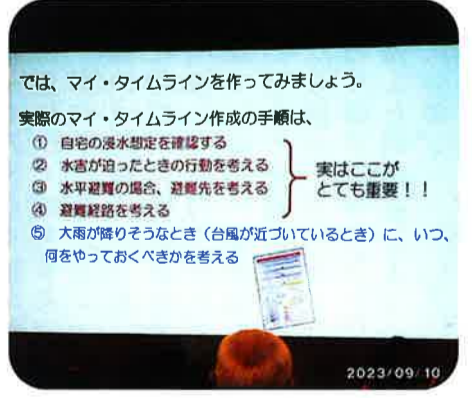


水防説明会

9月10日とねミドリ館で「水害から命を守るために」とのテーマの下、地域防災勉強会が開かれました。

古河市の防災担当者からは、まずは避難場所を公共施設のみではなく周りの市町村を含めて安全な地域に住む親族宅等も検討して決定することが大切であると強調され、また川の水位情報で「避難行動はまだ大丈夫だ」と自分で判断せずに状況に応じて発令される高齢者等避難などの情報に従って早めの避難をお願いしたいとの説明がありました。

説明終了後は何人もの質問者が手を挙げ、高齢者・障がい者はいっそう早い避難が望まれることやペットは公的避難場所に入れないこと、また避難時には道路冠水情報を入手し確認すること等、実際の避難をする上での活発なやり取りが行われました。



説明内容

今年度、水海小学校に着任いたしました校長の橋口純子と申します。水海小学校には、20年ほど前にも、縁を感じておりまして、縁を感じておりまして、

さて、令和5年度の水海小学校は、新入生28名を加え、全校児童165名でスタートしました。昭和56年4月に、新設・開校して以来、今年43年目を迎えることになりました。地域での登下校の見守りをはじめ、地域の皆様に、温かく見守られ、育て上げていただいていることに感謝申し上げます。今年度から、古河市では全小中学校一斉で、コミュニティ・スクール(学校運営

地域とともに

水海小学校長 橋口 純子

協議会制度)が始まりました。コミュニティ・スクールとは、学校・家庭・地域が、育てたい子どもの姿や学校のビジョンを共有し、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。水海小においても「地域とともにある学校」の実現を目指し、地域と一体となって協働で子どもたちを育てていけるよう努めて参ります。その柱になるのが、地域学校協働活動です。地域に今ある強みや魅力を最大限に生かさせていただき、児童の教育活動へ反映できれば幸いです。そして、これまで同様に、「地域の宝」である子どもたちのお力に、地域の皆様のお力をお借りしながら、歩んでいけたらと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

交通安全指導

交通委員会 稲葉 信也

高齢ドライバーによる運転操作の誤りで重大な交通事故が報じられています。高齢者の事故原因は、運動神経と反射神経も判断力も衰える。これが事故の原因となり得ると言われています。私にも先日、後期高齢者講習の通知が届きました。

この頃、事故にはなりません。右折の際、安全確認をしていないつもりでも、ぼんやりとして、何かを考え事をしながら運転をして、ヒヤリとする事があります。私たちの地域は、車が無いと生活が出来ません。自分が高齢者ドライバーであること、事故を起こす可能性があることを理解した上で車を運転したいものです。



新4号バイパス高野歩道橋



水海小学校入口交差点



釈迦西交差点



水海小スポーツフェスティバル

6年 小川 和真

ぼくがスポーツフェスティバルでがんばったことは、二つあります。一つ目は、ソーラン節です。動きを大きくしたり、声がかれるほどさけんだりしました。二つ目は、児童代表の言葉です。とてもきんちようしました。が、児童代表として自信をもち、間違えないようにしました。中学校に行ったら、6年生の時を思い出して、体育的な行事に全力で取り組みたいです。



水海ソーラン(5・6年生)

スポーツフェスティバルの思い出

1年生 とだ あまね

ぼくがうれしかったことは、かけっこで一ばんをとったことです。かけっこをするときに、いつものあいちゃんがみていたので、かっこよかったをみせることができてよかったです。



玉入れ(1・2年生)



大玉送り(全校)

功労感謝の会 紅白饅頭の配布について

内水海老人会 市村 昭夫

新型コロナウイルスが新聞紙面に登場して4年になります。所詮、三密の回避ということも多く、事業計画、民間活動が中止又は縮小となり、功労感謝の会も4回(4年)見送ったという実情です。

飲食は出来なくとも、せめて感謝の気持と形で継続させようとしたのが、日本で古くから祝祭時等で「お供」とされている紅白饅頭であったと言う風に理解しております。

では「功労」とは、三流の辞書には「手柄とその為の骨折」と記されておりました。

解釈の仕方によっては、長生きその事態こそが功労であるとしても、決して間違いでは無いでしょう。

紅白饅頭の謂われはともかく、小難しい理屈よりも先づは、「長生きバンザイ、人生バンザイ」と声高に叫びたいですね。水海小学校、釈迦小学校児童の皆さん、メッセージを拝見しました。御礼申し上げます。



饅頭の配布



橋本久美子氏

ダイバーシティの実現を

町水海行政区 能城 忠雄

2月11日。コスモスプラザにて「パートナーシップIN古河2023」ダイバーシティの実現を目指して」が開催されました。

講演会では、新・ダイバーシティ経営企業百選に選ばれた(株)吉村の橋本久美子氏からお話を頂きました。父親の引退

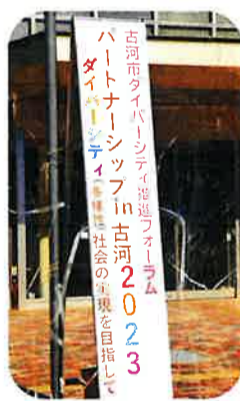
紅白饅頭に思う

前林行政区 飯田 和夫

私は昭和22年10月生まれ、いわゆる終戦子というやつです。東北の山村で生まれ育ちました。兄弟は4人の男ばかりの末っ子で、育ち盛りは本当に腹が減ってばかりいました。幸い山村なので、山へ行つては栗の実やアケビ、イチジク、桑の実など採って空腹を満たしていたのです。それが又新鮮でうまかったのを思い出します。今ではそんな事も、したくても出来ない時代となり、懐かしい思い出です。

さて、敬老の日に当たり紅白饅頭を配布いただき、日本の国も色々諸問題はありますが、まだ平和だなあと、小さな幸せを感じております。

他国では悲しい戦争が今もまだ収束せず、多くの犠牲者で溢れています。なんと愚かすぎるのか。そのなかで、これから寄りが幸せでありますように強く祈念しまして、紅白饅頭のお礼がとうございました。



ダイバーシティ

に伴い会社経営を任されたことが経営悪化に抗していったことがダイバーシティ(雇用の機会均等、多様な働き方)につながったのだそうです。経営理念と方針を従業員と共有し、儲けること、社会への貢献、働く人を幸せにする事を念頭に置き、経営をすすめてきたとのこと、結果、事業拡大のみならず結婚・出産による退職がなくなり、さらには障害者の雇用にもつなげることができたことでした。続いて、古河市で活躍されている方々のダイバーシティの取り組みについてトークセッションが行われました。その中で、視覚障害者の依頼を受けて点字名刺を作ったり、古河市の広報にLGBTの2人を表紙に掲載したりすることで市民の理解拡大につなげることができたなど、成果もでてきているとのことでした。

水害から命を守るために

高野行政区 吉沼 明夫

最近、といっても20、30年前からであるが全国で毎年の様に50年に1度、100年に1度の災害が起きています。12年前に数100年に1度と言われた東日本大震災が起きて甚大な被害が発生してしまいましたが、都心部や東海地方では近々に同等若しくはそれ以上の巨大地震の発生が叫ばれている。強風、豪雨、地震は子供の頃から体験しているもので余り脅威に感じたことは無かったが、最近のそれは常軌を逸している様に思える。

私が住んでいる古河市は大変災害の少ない地域として認識していたが、数年前に台風が来た時は大雨で利根川が満水になり



水防説明会

生涯で初めて避難した。避難勧告は以前にも何回かあったが避難しなかった。今回も同様に家の周囲を消防車が走り回り避難を呼びかけていたが、中々思いつけず避難したのは翌日の早朝2時頃であった。決断が遅れたのは子供の頃の経験からの、まさか、と云う思いであり、避難が決断できたのは最近の頻繁な、もしかして、と云う思いであった。テレビの悲惨な映像が背中を押した。

水害についての講習会があるとのことで拝聴させて頂いた。もし利根川の堤防が決壊すると我が家の周囲は水かさ5mになるらしい。完全に水没する。水かさ30cm程度で車での避難は困難となるらしいので、2km程度の距離にある我が家からは、堤防が結界してからの避難は困難となる。早めの避難が必要だがそれだけでは不十分で、快適な避難生活を送るためには日頃からの準備が必要だ。

避難を躊躇させる障害がある様に思える。それは、避難した時何もすることが無い、と云うことだ。初めて避難した時は4時間から8時間程も後のことだったがとにかく何もすることが無く、車の中に3人でジツとして

いるのは結構辛かった。もし本当に利根川の堤防が決壊したら大災害となるのでそれどころではなくなるが一度避難を体験したのでもう避難に対する抵抗はかなり薄らいでいる。今は不謹慎と非難されるかもしれないが、避難した時何をしようか、と考



高野地蔵尊

高野地蔵尊祭

高野行政区 落合 和子

高野の地蔵尊祭が8月23・24日に規模を縮小して行われました。今年も子供会のお囃子、盆踊り、打ち上げ花火など中止になりました。

数年前は、夏休みになると小学生のみんなが汗まみれになり太鼓やお囃子の練習をする姿はとても愛らしかったです。

踊りも、女性部を中心に練習して本番を迎えたこと、人と人の交流ができて楽しい一時でした。本番の盆踊り、花火、お囃子にと夜の会場は沢山の地元の方々で帰省して祭りを楽しむ参加者で溢れんばかりになって居たのがちよつと前だったこと・・・

今年地蔵尊祭の時間が、7時までと一時間長くなったことで、参加される方が少し増えたように思われます。

コロナがインフルエンザと同じく「5類」に引き下げられても、まだまだ感染者が出ています。現状ですが、新たな希望を持って夏祭りが出来ますように願っています。



地蔵尊

編集後記

今年度は特に猛暑が多くいろいろな面で被害をもたらしています。早くもインフルエンザの流行が始まり小中高等学校の学年学校閉鎖が見られます。さらにコロナ感染に気を付けましょう。とねの絆20号の原稿のご協力ありがとうございました。

広報委員長 梁河 紀栄